

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率 月次指標の早期推計：8月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: contact@apir.or.jp

ポイント

●9月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

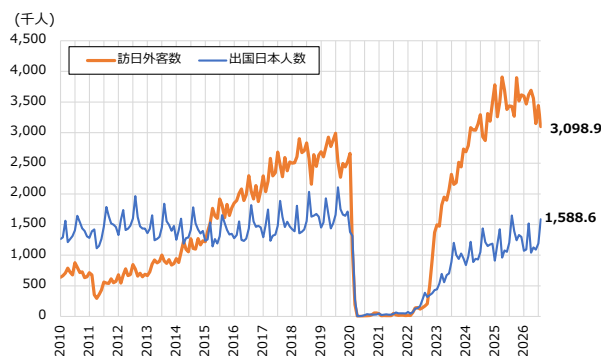
▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表4)、**8月の訪日外客総数(推計値)は309万8,900人**であった。**前年同月比-9.6%**、2カ月ぶりのマイナス。中国人客の大幅減少が続いていることに加え、8月は自然災害の影響で航空便が欠航した影響もあり訪日外客全体が押し下げられた。また、**同月の出国日本人数は158万8,600人**、同-3.6%と**2カ月連続のマイナス**となった。なお、2019年同月比では-24.7%となり、アウトバウンド需要は依然低迷している。

▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表4)、8月は**韓国が85万500人**(前年同月比+28.7%)と**最多**を記録した。次いで台湾が66万6,000人(同+7.3%)、中国が41万8,000人(同-59.0%)、香港が24万7,300人(同+9.4%)、米国が19万7,400人(同+1.5%)、と続く。**日中関係悪化の影響が続いており、中国人客は9カ月連続で大幅減少**した。なお、イタリア及びスペインが過去最高値を更新した。

▶**目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(表5)、6月は314万8,754人**となった。前年同月比-6.8%、3カ月連続のマイナス(前月：同-3.6%)。うち、**観光客は289万8,017人**で、伸びは同-6.8%と**3カ月連続のマイナス**(前月：同-3.6%)。その他客は15万4,315人、**商用客は9万6,422人**であった。伸びをみれば、その他客は同-3.1%と4カ月ぶりのマイナス。また、商用客は同-10.8%と5カ月連続のマイナスとなった。

▶7月28日に発生した「**令和8年熊本地震**」からの復旧・復興が進み、観光客が戻りつつある。今月のレポートでは公益社団法人日本観光振興協会の「デジタル観光統計オープンデータ」を用いて、九州における足下の観光状況を概観する。図3は2026年1月から9月までの観光来訪者数の前年同月比の推移を示したものである。地震発生後の8月には長崎県(同-8.5%)、熊本県(同-7.6%)はそれぞれマイナス。また地震の影響で九州新幹線が一部不通となっていた影響もあり、鹿児島県(同-3.6%)も減少となっている。なお、宮崎県(同+10.1%)、大分県(同+9.8%)、福岡県(同+3.0%)と佐賀県(同+1.4%)はプラス。9月には各県ともに前年同月から増加しており、地震の影響が和らぎつつある。また前月レポートで指摘したように、10月以降、「九州ふっこう応援割」が開始されていることもあり、観光客の一層の回復が期待される。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移

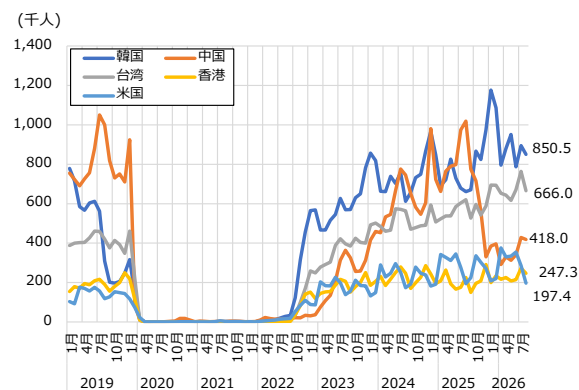


注：2025年まで確定値、26年6月までは暫定値

2026年7-8月は推計値

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

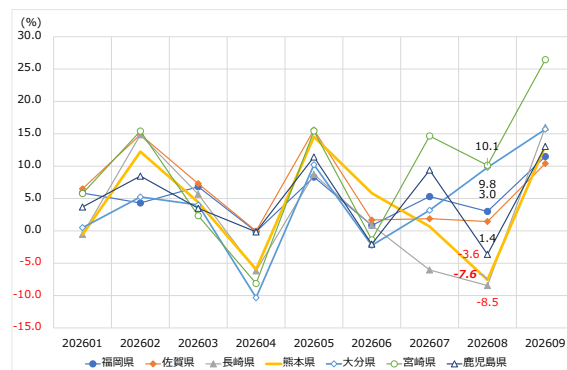
図2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5の国・地域は値を表示している

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図3 九州 観光来訪者数 伸び率推移：前年同月比



注：ここでの観光来訪者とは、日本国内に居住する者で日常生活圏以外の観光地点を訪れた者。なお、1人の観光来訪者が一日のうちに当該都道府県あるいは市町村内の複数の観光地点を訪れたとしても、1人とカウントしている。

出所：公益社団法人日本観光振興協会「デジタル観光統計オープンデータ」より筆者作成

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

●8月関西の財貨・サービス貿易の動向

▶**関西 8 月の輸出額は**前年同月比+26.6%と **23 カ月連続の増加**、6 カ月連続で 2 桁の伸びを記録した。AI 関連需要の爆発的な拡大が続いており、アジア向けを中心に半導体関連輸出が堅調。また、**輸入額は**同+35.2%と **7 カ月連続の増加**となった。結果、**関西の貿易収支は+2,610 億円と 19 カ月連続の黒字**。しかし、輸入額の伸びが輸出額の伸びを上回ったこともあり、黒字幅は前年同月比-14.7%と 2 カ月連続で縮小した(図 4)。

▶対中国貿易動向をみると(図 5)、**関西 8 月の対中国輸出は**前年同月比+42.3%と **6 カ月連続で増加**した。輸出増に寄与したのは、半導体等電子部品や原料品等であった。また、**対中国輸入は**同+25.6%と **10 カ月連続の増加**となった。輸入増に寄与したのは、通信機や有機化合物等。結果、対中国貿易収支は+586 億円と 2 カ月連続の黒字。AI 関連需要の拡大を受け、対中国貿易は好調が続いている。

▶**8 月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は 69 万 5,338 人**であった(図 6)。前年同月比-24.2%と **9 カ月連続で減少**し、**且つ 5 カ月連続で 2 桁のマイナス**となった(前月：同-15.6%)。中国人客の訪日自粛の影響が続いており、外国人入国者数は低迷している。また、日本人出国者数は 31 万 1,108 人であった。前年同月比-4.4%と 2 カ月連続で減少した(前月：同-0.1%)。なお、2019 年同月比では-25.1%となり、アウトバウンド需要は依然低迷。

▶サービス業の生産活動を示す**第 3 次産業活動指数(季節調整済み)**：2019-20 年平均=100)をみれば(図 7)、**8 月**は 106.8 で前月比-0.1%と **2 カ月ぶりのマイナス**となった(前月：同+0.2%)。経産省は基調判断を「一部に足踏みがみられるものの、持ち直し傾向にある」と前月から据え置いた。また、**対面型サービス業指数***は 107.8 で同+1.1%、**3 カ月連続のプラス**(前月：同+0.0%)。うち、運輸業、郵便業(同+4.3%、2 カ月ぶり)や医療、福祉(同+0.1%、5 カ月連続)などが上昇に寄与した。7-8 月平均を 4-6 月平均と比較すると、第 3 次産業活動指数は+0.3%、対面型サービス業指数は+0.6%、それぞれ上昇した(4-6 月期：第 3 次産業活動指数：前期比+0.5%、対面型サービス業指数：同-0.3%)。

▶8月の**観光関連指数****(季節調整済み：2019-20 年平均=100)は(図 7)、111.6 と前月比+0.6%と **2 カ月連続のプラス**となった(前月：同+3.1%)。うち、旅客運送業(同+1.2%、2 カ月連続)や公園、遊園地・テーマパーク(同+5.6%、3 カ月ぶり)などが上昇に寄与した。7-8 月平均の観光関連指数は 4-6 月平均比+0.3%上昇した(4-6 月期：前期比-0.9%)。

*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

**観光関連指数は第 3 次産業活動指数のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指数の加重平均。

図 4 関西 対世界貿易の推移

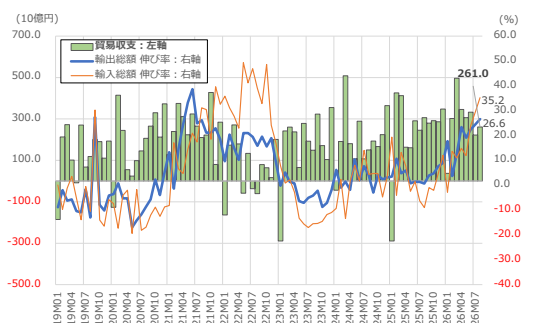
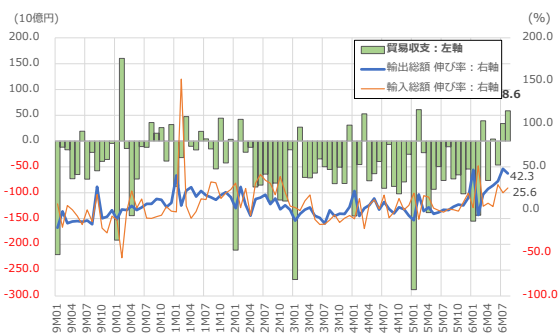
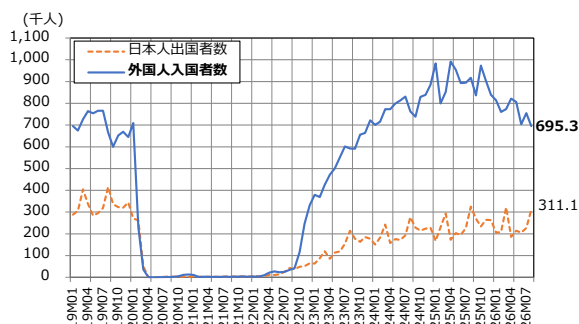


図 5 関西 対中国貿易の推移



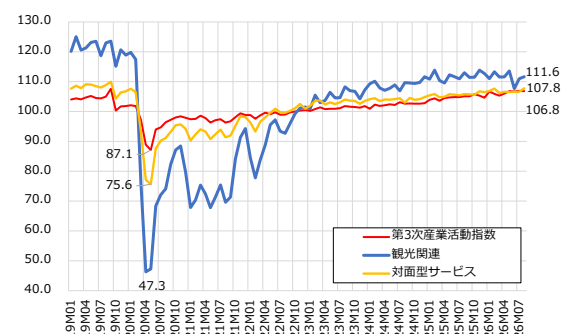
出所：『大阪税関貿易速報資料：近畿圏』
より筆者作成(図 4～5)

図 6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2026 年 8 月値は速報値

図 7 観光関連 対面型サービス 第 3 次産業：2019-20 年平均=100



出所：経済産業省「第 3 次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●6月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、6月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**9,274.0千人泊**(表1)。**前年同月比-15.3%と8カ月連続で減少**し、減少幅は前月(同-10.2%)から拡大した。日本人、外国人延べ宿泊者いずれも減少が続いており、**宿泊需要は低迷**している。

▶6月の日本人延べ宿泊者数は**6,020.7千人泊**となった。**前年同月比-14.3%と8カ月連続で減少**し、減少幅は前月の同-7.1%から拡大した(表1及び図8)。**府県別にみれば**、大阪府1,953.5千人泊と最も多く、次いで、京都府1,086.4千人泊、兵庫県1,013.0千人泊となった。また、三重県505.0千人泊、滋賀県350.0千人泊、福井県275.6千人泊、和歌山県262.2千人泊、奈良県211.2千人泊、鳥取県206.8千人泊、徳島県156.8千人泊であった。**前年同月比(-14.3%)に対する寄与度をみれば、減少に寄与したのは、大阪府(同-10.9%ポイント)、三重県(同-1.7%ポイント)、京都府(同-1.7%ポイント)等の6府県であった。**

▶6月の外国人延べ宿泊者数は**3,253.3千人泊**であった(表1及び図9)。**前年同月比-17.2%と12カ月連続で減少**した。**府県別にみれば**、大阪府1,682.5千人泊、京都府1,230.1千人泊と2府への集中が続いている。また、兵庫県159.9千人泊、和歌山県58.0千人泊、奈良県30.7千人泊、三重県24.5千人泊、滋賀県22.4千人泊、鳥取県20.9千人泊、徳島県14.9千人泊、福井県9.4千人泊であった。**前年同月比(-17.2%)への寄与度をみれば、大阪府(同-9.4%ポイント)、京都府(同-7.4%ポイント)、奈良県(同-0.4%ポイント)等の6府県が外国人延べ宿泊者の減少に寄与した。**京都府では8カ月連続で、大阪府では2026年2月を除けば25年6月以降、それぞれ減少が続いている。

▶なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金：2019年=100)をみれば、2026年8月は**73.6**となった。前年同月比+4.0%と3カ月連続で改善した。賃金上昇率が3%超となっていることに加え、宿泊料金の伸びが同-0.2%と2023年3月(同-0.6%)以来のマイナスに転じたことが影響した(図10)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

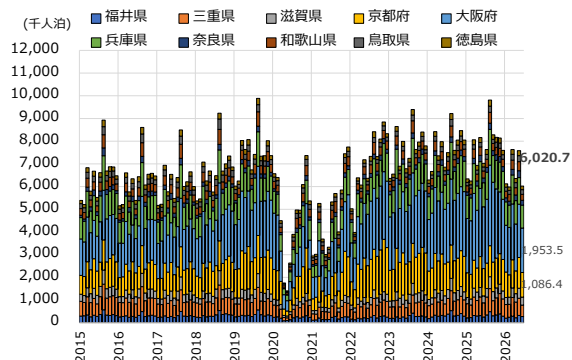


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

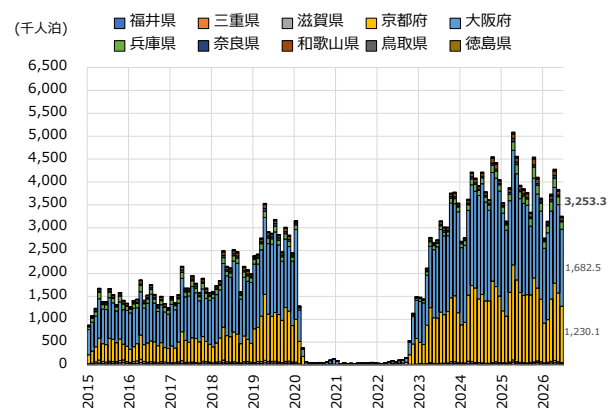
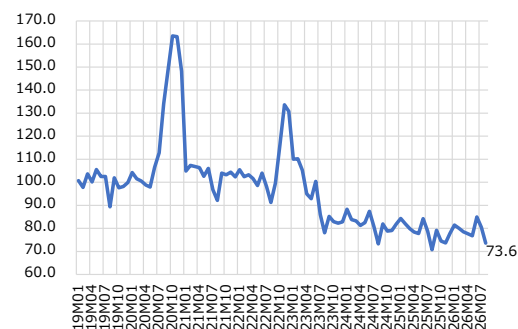


図10 宿泊料金と賃金の交易条件



注：交易条件は賃金(現金給与総額)を宿泊料金(消費者物価)で除した指数。2019年平均を100

出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』より筆者作成

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：6月

	総数				日本人				外国人			
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	285.0	8.2	0.2	2.6	275.6	7.6	0.3	1.7	9.4	28.1	0.1	30.3
三重県	529.5	-19.2	-1.2	-7.5	505.0	-18.9	-1.7	-7.4	24.5	-25.0	-0.2	-10.5
滋賀県	372.4	13.6	0.4	5.2	350.0	14.1	0.6	5.3	22.4	6.4	0.0	3.1
京都府	2,316.5	-15.0	-3.7	-9.3	1,086.4	-9.8	-1.7	-0.5	1,230.1	-19.2	-7.4	-15.9
大阪府	3,636.0	-23.8	-10.4	-19.6	1,953.5	-28.2	-10.9	-21.8	1,682.5	-18.0	-9.4	-16.8
兵庫県	1,172.9	-3.0	-0.3	-2.8	1,013.0	-4.4	-0.7	-0.9	159.9	6.3	0.2	-14.4
奈良県	241.9	-4.1	-0.1	3.3	211.2	2.2	0.1	9.4	30.7	-32.7	-0.4	-27.9
和歌山県	320.3	-14.4	-0.5	5.2	262.2	-15.0	-0.7	7.6	58.0	-11.6	-0.2	-5.1
鳥取県	227.7	18.7	0.3	31.8	206.8	17.6	0.4	37.1	20.9	30.3	0.1	-14.7
徳島県	171.8	-3.9	-0.1	0.2	156.8	-3.8	-0.1	-0.4	14.9	-4.9	-0.0	7.0
関西2府4県	8,060.1	-16.6	-	-11.9	4,876.4	-16.0	-	-9.0	3,183.6	-17.5	-	-16.1
関西2府8県	9,274.0	-15.3	-15.3	-10.2	6,020.7	-14.3	-14.3	-7.1	3,253.3	-17.2	-17.2	-15.9
全国	45,815.1	-8.4	-	-3.2	33,595.3	-6.3	-	-0.9	12,219.9	-14.0	-	-9.0

注：表中の赤枠は寄与度が高いTOP3を示している。出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8～9及び表1)

トピックス 3

● 2026 年 4-6 月期訪日外国人訪問率と消費単価：関西

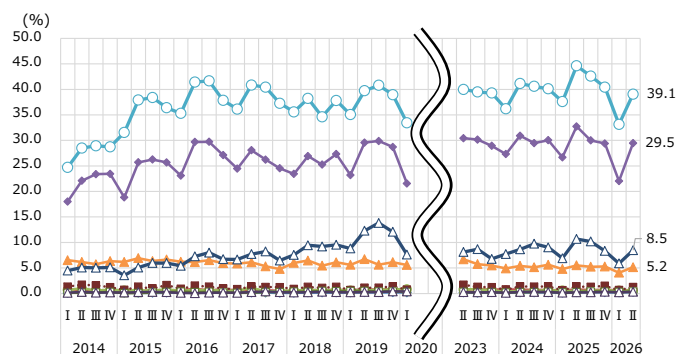
▶観光庁によれば、**2026 年 4-6 月期における関西 2 府 8 県の訪問率**をみると(図 11)、**大阪府 39.1%が最も高く**、次いで京都府 29.5%となっている。また、奈良県 8.5%、兵庫県 5.2%、和歌山県 1.2%、三重県 0.7%、滋賀県 0.6%、鳥取県 0.4%、徳島県 0.3%、福井県 0.3%と続く。前年同期と比較すると(表 2)、大阪府は同-5.6%ポイント、京都府は同-3.3%ポイントといずれも大幅低下となった。また、奈良県同-2.2%ポイント、兵庫県同-0.4%ポイント、和歌山県同-0.1%ポイント、三重県同-0.1%ポイントとそれぞれマイナス。一方、福井県、滋賀県、鳥取県と徳島県は同+0.1%ポイントといずれも小幅上昇にとどまった。

▶当該期間の各府県の訪問率に訪日外客数を乗じて推計した関西における訪日外客数をみよう。**2026 年 4-6 月期の訪問者数**を降順にみれば(表 2)、**大阪府 406 万 3,243 人(前年同期比-17.1%)と最も多く**、次いで京都府 306 万 5,715 人(同-14.7%)、奈良県 88 万 743 人(同-24.9%)、兵庫県 53 万 6,546 人(同-11.4%)、和歌山県 12 万 9,724 人(同-13.1%)、三重県 7 万 2,195 人(同-15.7%)、滋賀県 6 万 150 人(同+20.2%)、鳥取県 4 万 2,614 人(同+45.9%)、徳島県 3 万 3,710 人(同+45.5%)、福井県 2 万 9,279 人(同+18.2%)と続く。

▶観光庁によれば、**2026 年 4-6 月期の関西における訪日外国人消費単価**(旅行者 1 人 1 回当たりの旅行消費金額)をみると(表 3)、**関西 2 府 4 県では前年同期比+2.4%と 2 四半期ぶりの増加に転じた**。費目別にみれば、買物代が同+4.2%増加し、5 四半期ぶりの増加となった。また、飲食費は同+4.2%、娯楽等サービス費は同+5.9%と 2 四半期ぶりに、交通費は同+24.3%と 2 四半期連続でそれぞれ増加した。一方、宿泊費は同-4.9%とコロナ禍が正常化した 2023 年以降初めて減少に転じた。

▶観光庁によれば、**2026 年 4-6 月期の関西における訪日外客消費額は 6,364 億円**となり(表 3)、**前年同期比-12.2%**となり、2 四半期連続で減少した(26 年 1-3 月期：同-14.8%)。一方、同期の全国の消費額は 2 兆 5,125 億円、同+0.3%であった(26 年 1-3 月期：同+2.5%)。中国人客の訪日旅行自粛の影響が、全国に比べて関西の方に強めに表れており、関西のインバウンド消費は弱含んでいる。

図 11 訪日外国人訪問率の推移：関西 2 府 8 県



出所：観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成。

表 2 訪日外客の訪問率と人数：関西 2 府 8 県

府県ベース				単位：%、人			
府県ベース	25Q2	26Q2	前年差	府県ベース	25Q2	26Q2	前年比伸び率
福井県	0.2	0.3	0.1	福井県	24,772	29,279	18.2
三重県	0.8	0.7	-0.1	三重県	85,617	72,195	-15.7
滋賀県	0.5	0.6	0.1	滋賀県	50,061	60,150	20.2
京都府	32.7	29.5	-3.3	京都府	3,595,147	3,065,715	-14.7
大阪府	44.6	39.1	-5.6	大阪府	4,899,446	4,063,243	-17.1
兵庫県	5.5	5.2	-0.4	兵庫県	605,662	536,546	-11.4
奈良県	10.7	8.5	-2.2	奈良県	1,172,871	880,743	-24.9
和歌山県	1.4	1.2	-0.1	和歌山県	149,217	129,724	-13.1
鳥取県	0.3	0.4	0.1	鳥取県	29,209	42,614	45.9
徳島県	0.2	0.3	0.1	徳島県	23,169	33,710	45.5
運輸局ベース				単位：%、人			
運輸局ベース	25Q2	26Q2	前年比伸び率	運輸局ベース	25Q2	26Q2	前年比伸び率
北海道	4.5	5.0	0.5	北海道	490,914	518,292	5.6
関東	54.3	54.8	0.5	関東	5,967,319	5,700,175	-4.5
中部	12.0	11.4	-0.5	中部	1,314,181	1,189,638	-9.5
近畿	47.6	42.6	-5.0	近畿	5,230,096	4,434,712	-15.2
九州	12.2	13.9	1.7	九州	1,342,072	1,446,423	7.8

出所：JNTO『訪日外客統計』及び観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者推計。

表 3 費目別訪日外国人消費単価の比較：関西 2 府 4 県

		消費単価						
		費目別 (7区分)						
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2025 年 4-6 月期 (万円/人)	滋賀県	4.6	2.2	1.2	0.1	0.4	0.0	
	京都府	6.1	2.7	1.4	0.2	1.0	0.0	
	大阪府	10.0	3.2	1.9	0.2	3.2	0.0	
	兵庫県	4.4	1.4	1.3	0.1	1.2	0.0	
	奈良県	1.0	0.3	0.3	0.0	0.2	0.0	
	和歌山県	3.8	2.2	0.9	0.1	0.2	0.0	
	2府4県	7.2	2.6	1.5	0.2	2.0	0.0	
2026 年 4-6 月期 (万円/人)	滋賀県	4.2	1.9	1.1	0.1	0.7	0.0	
	京都府	6.6	2.7	1.5	0.2	1.2	0.0	
	大阪府	10.1	3.0	2.1	0.2	3.3	0.0	
	兵庫県	3.3	1.1	0.9	0.1	0.9	0.0	
	奈良県	0.8	0.2	0.3	0.0	0.2	0.0	
	和歌山県	4.4	1.9	0.9	0.1	0.4	0.0	
	2府4県	7.4	2.4	1.6	0.2	2.0	0.0	
前年比 (%)	滋賀県	-8.4	-12.5	-11.0	-34.9	7.6	62.2	-
	京都府	8.1	-0.9	3.8	28.0	48.9	15.2	-
	大阪府	0.7	-6.9	6.8	24.6	-9.0	3.0	-
	兵庫県	-24.3	-23.7	-31.9	-38.2	86.6	-26.2	-
	奈良県	-12.1	-32.4	-0.3	57.5	16.3	-11.0	-
	和歌山県	15.7	-11.1	0.9	-3.6	60.8	59.7	-
	2府4県	2.4	-4.9	4.2	24.3	5.9	4.2	-

訪日外客消費額	25 年 4-6 月期 (万円)	26 年 4-6 月期 (万円)	前年同期比 (%)
関西 2 府 4 県	72,506,213	63,635,474	-12.2
全国	250,430,000	251,250,000	0.3

(注)全目的ベース。2025 年は確報(上図も同様)。消費単価にはパッケージ参加費が含まれる。

出所：観光庁『インバウンド消費動向調査 参考表都道府県別集計』より筆者作成。

表4 2026年8月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)
	8月	8月		1~8月	1~8月	
総数	3,428,406	3,098,900	-9.6	28,384,099	27,626,300	-2.7
総数(中国除く)	2,409,659	2,680,900	11.3	21,672,248	24,721,700	14.1
韓国	660,917	850,500	28.7	6,123,081	7,420,300	21.2
中国	1,018,747	418,000	-59.0	6,711,851	2,904,600	-56.7
台湾	620,753	666,000	7.3	4,509,729	5,402,000	19.8
香港	226,069	247,300	9.4	1,673,144	1,818,300	8.7
タイ	35,499	32,200	-9.3	764,521	790,500	3.4
シンガポール	20,512	21,600	5.3	389,972	429,000	10.0
マレーシア	21,143	26,000	23.0	363,216	421,100	15.9
インドネシア	31,419	32,500	3.4	405,008	451,200	11.4
フィリピン	44,209	39,100	-11.6	539,690	558,500	3.5
ベトナム	61,215	56,600	-7.5	479,391	505,300	5.4
インド	18,620	19,500	4.7	208,043	250,100	20.2
豪州	41,250	38,200	-7.4	658,668	681,200	3.4
米国	194,525	197,400	1.5	2,173,032	2,305,300	6.1
カナダ	51,513	50,600	-1.8	439,002	469,600	7.0
メキシコ	13,575	18,600	37.0	118,196	151,300	28.0
英国	36,690	36,600	-0.2	344,830	364,800	5.8
フランス	37,185	40,300	8.4	293,112	318,300	8.6
ドイツ	35,677	33,700	-5.5	266,576	281,500	5.6
イタリア	41,098	47,300	15.1	198,948	207,800	4.4
スペイン	31,990	36,500	14.1	154,307	170,500	10.5
ロシア	13,044	14,400	10.4	108,001	131,900	22.1
北欧地域	9,051	9,400	3.9	122,571	139,000	13.4
中東地域	18,354	22,900	24.8	154,137	179,300	16.3
その他	145,351	143,700	-1.1	1,185,073	1,274,900	7.6

表5 2026年6月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)
	6月	6月		6月	6月		6月	6月		6月	6月	
総数	3,377,985	3,148,754	-6.8	3,110,559	2,898,017	-6.8	108,137	96,422	-10.8	159,289	154,315	-3.1
韓国	729,860	787,151	7.8	702,542	759,464	8.1	14,890	14,446	-3.0	12,428	13,241	6.5
中国	798,001	340,803	-57.3	725,720	284,159	-60.8	27,662	18,114	-34.5	44,619	38,530	-13.6
台湾	585,070	670,445	14.6	570,380	654,807	14.8	8,301	8,495	2.3	6,389	7,143	11.8
香港	166,764	214,290	28.5	163,285	210,635	29.0	1,916	1,991	3.9	1,563	1,664	6.5
タイ	52,059	48,009	-7.8	46,883	43,914	-6.3	2,313	2,205	-4.7	2,863	1,890	-34.0
シンガポール	68,629	68,376	-0.4	66,148	65,929	-0.3	2,086	2,040	-2.2	395	407	3.0
マレーシア	28,106	29,908	6.4	25,865	27,870	7.8	1,415	1,282	-9.4	826	756	-8.5
インドネシア	51,462	52,723	2.5	38,646	37,273	-3.6	1,237	1,163	-6.0	11,579	14,287	23.4
フィリピン	63,203	59,861	-5.3	50,660	47,612	-6.0	5,982	6,301	5.3	6,561	5,948	-9.3
ベトナム	52,935	56,508	6.7	16,537	20,731	25.4	3,044	2,989	-1.8	33,354	32,788	-1.7
インド	28,623	36,062	26.0	20,770	27,645	33.1	4,811	5,483	14.0	3,042	2,934	-3.6
豪州	59,422	63,874	7.5	56,605	61,277	8.3	2,055	1,845	-10.2	762	752	-1.3
米国	345,150	354,496	2.7	331,411	340,249	2.7	9,893	9,748	-1.5	3,846	4,499	17.0
カナダ	41,588	44,009	5.8	39,762	42,245	6.2	1,004	1,027	2.3	822	737	-10.3
メキシコ	13,242	13,283	0.3	12,860	12,922	0.5	203	167	-17.7	179	194	8.4
英国	33,525	36,195	8.0	29,826	32,761	9.8	2,433	2,189	-10.0	1,266	1,245	-1.7
フランス	27,105	28,065	3.5	23,561	24,762	5.1	2,042	1,800	-11.9	1,502	1,503	0.1
ドイツ	23,912	20,488	-14.3	20,728	17,139	-17.3	2,347	2,474	5.4	837	875	4.5
イタリア	20,126	21,522	6.9	18,171	19,972	9.9	1,418	1,018	-28.2	537	532	-0.9
ロシア	11,947	12,846	7.5	10,914	11,804	8.2	584	502	-14.0	449	540	20.3
スペイン	18,160	20,524	13.0	17,326	19,625	13.3	467	500	7.1	367	399	8.7
中東地域	17,420	22,566	29.5	16,251	21,524	32.4	647	680	5.1	522	362	-30.7
その他	141,676	146,750	3.6	105,708	113,698	7.6	11,387	9,963	-12.5	24,581	23,089	-6.1

注：目的別訪日外客数の定義については、レポート No.79 図3 の注を参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域
出所：日本政府観光局(JNTO)、2026年9月16日付より筆者作成(表4~5)